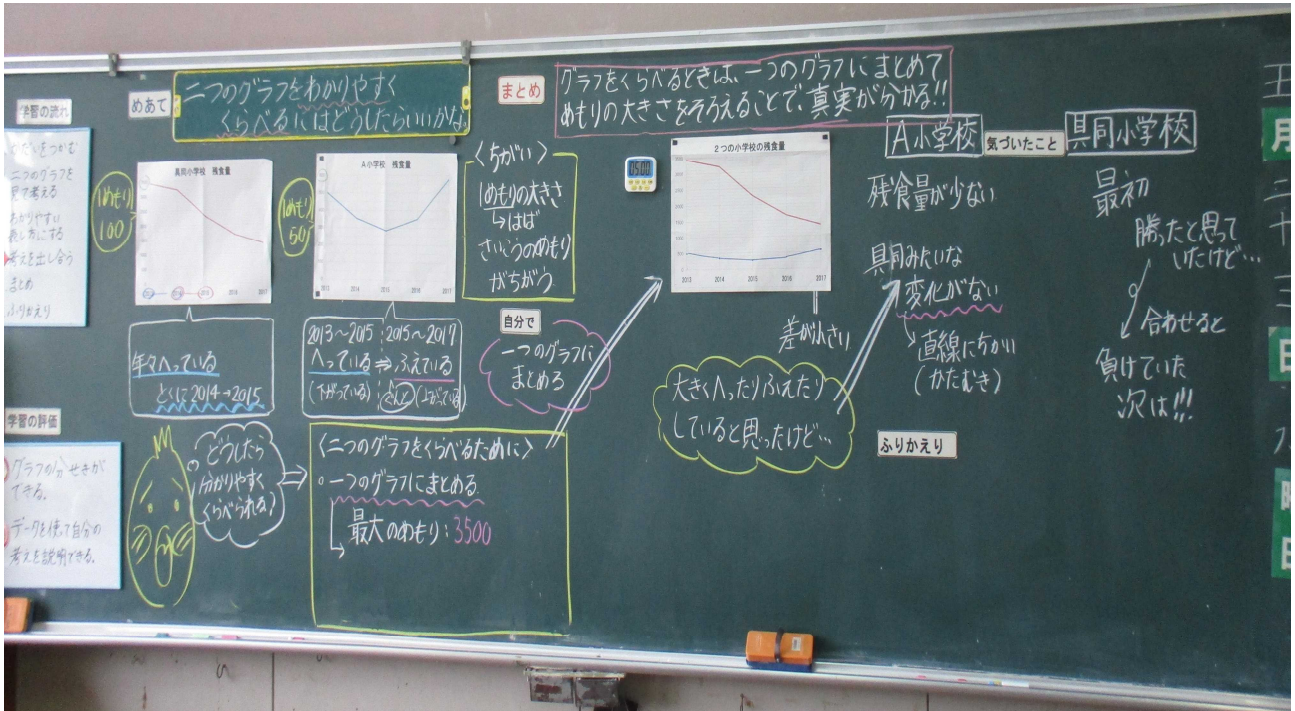


授業者も！参加者も！学ぶ！！高まる！！広げる！！ 西部の算数・数学の未来へのバトンをつなぐ



西部教育事務所

5月23日（水）、授業づくり講座の授業研究会を具同小学校で開催しました。
新学習指導要領が目指す授業作りにむけて、教材研究後、授業者の中田先生は子どもたちが身近な問題を統計的な見方・考え方を働かせて数学的活動ができるように、生データの収集や単元デザインを再構成した授業展開を考えられていました。



今回の授業

四万十市立具同小学校 4年「グラフや表を使って調べよう」 中田 静香 教諭

「具同小学校の残食はどれだけあるのだろう。」と子どもたちが疑問に思った内容のデータを収集し「他の学校の残食はどうか。」という新たな課題が生まれ、新たなデータが追加された場面である。2つのグラフを比べて判断したことを考察し、1つのグラフにまとめることのよさや読み取ることができる情報を他者へ分かりやすく伝える場面を積極的に取り入れた提案授業となりました。



統計的な問題解決について『問題—計画—データ—分析—結論』サイクルを丁寧に描くことの大切さや「教材の選定」、「なぜ、グラフの学びを重視するのか」など3点について、齊藤先生から、たくさんのご助言をいただきました。

授業者の声

新学習指導要領と教科書の指導の方法がリンクしきれていない部分があり、どのように授業を行えばよいか非常にとまどいがあった。統計学のサイクル（PPDAC）を回すには、どのような教材、単元デザインにしたらよいかについても悩むところが大きかった。

教材研に参加してくださった先生方や事務所の先生方のアドバイスのおかげで自分の中でサイクルを回すイメージが少しずつ持てた。折れ線グラフの良さと棒グラフの良さを私自身が混合してしまったところがあり、差に注目する児童がいたことが課題である。その点をどう改善したらよいか自分では分からなかったが、齊藤先生の傾向が分かりやすいグラフに作りかえていったらよかったという助言から、そうすることで傾きや変化に着目する児童が育てられたのではないかと考えることができた。



参会者の声

算数で学んだことを生活に返す単元構成により学びをサイクル化させていく授業は、新学習指導要領で求められている力であり、大変勉強になった。子どもたちは、たくさんのお気づきやつぶやきがあったと思うので、それを教師がひろって価値付け、全体に広げていかなければならないと改めて感じた。また、対話的で深い学びのためには、教材研究の段階から丁寧に納得するまで、取り組まなければならないという事を改めて思った。

参会者の声

折れ線グラフは、線の傾きで変化の様子を捉えるグラフであるため、やはり傾きにしっかり目を向けさせ、分析・考察させなければならないこと。傾きに目をむけさせるには、比べさせる2つのグラフが重要ということ。そして、事前研究の大切さを改めて感じました。PPDACサイクルをていねいに描き、授業を行う大切さや子どもに本当はそうだろうかと問題意識を持たせるような授業を行うことなど今後の実践に活かしたい。

参会者の声

2つのデータを比べる必然性を持たせる手立てであったり、事前研究が大切であることを学んだ。PPDACのサイクルのもと児童の批判的思考を養い、多面的・多角的に分析する力を身につけることができるデータを考える必要があると感じた。PPDACの追求に耐えるデータについて考えるとともに、事前研究をしっかりと行うことで、子どもに失礼のない授業を行っていききたい。

参会者の声

授業の構成、イメージ、サイクルをえがくことで、本単元の学びでどんな力をつけたいのか、何を使って、何を身につけさせたいのか、どんなものの見方や考え方のできる子どもを育てたいのか日々の授業でしっかりと自分の考えを持って取り組んでいきたい。

「D：データの活用」を扱う際には、教材の選定が大事になること。子どもたちの日常生活の中から、算数の問題を見だし、計画していくことが大事。学びに意味があるものではないといけないということ。授業の前に、教材研が大事。データの活用の授業では、子どもが納得できる授業になっているかどうか大事。

「来月の学び場」のお知らせ

6月18日(月) 入野小授業研究会(PM)

6月19日(火)中村中授業研究会(PM)

6月20日(水) 清水中授業研究会(PM)

6月21日(金)清水小授業研究会(PM)

ぜひ、参加してみてください！